

シンフォニー

第 **48** 号

年3回発行(1月・5月・9月)

発行/医療法人社団協会 彩の国東大宮メディカルセンター 編集/広報委員会
〒331-8577 埼玉県さいたま市北区土呂町1522 TEL.048-665-6111 FAX.048-665-6112 <https://www.shmc.jp>

特集

Feature Articles

2021年4月より 内視鏡支援ロボット 「ダビンチX」 を導入。



泌尿器科 部長
佐藤 克彦

当院では以前より「体に優しい、低侵襲な治療」「機能温存」を心がけ、小切開手術や腹腔鏡手術を積極的に行って参りました。

手術は治療の選択肢のひとつですが、患者さんの体に大きな負担をかけることから、できるだけその負担を減らしながら、かつ手術精度を高めることが求められます。その理念を追求する上で最も革新的といえる機器が内視鏡支援ロボット、通称「ダビンチ」です。

ダビンチは、低侵襲技術を用いて複雑な手術を可能とするために開発されました。高画質で遠近感を伴う3Dハイビジョンシステム画像の下、最大14倍の拡大視野で、人間の手の動きを正確に再現する関節を備えた器具(鉗子)を使用し、精緻な手術を行うことができます。ただし、ロボットがひとり

で動いて自動的に手術が行われるわけではありません。手術の主導者はあくまで執刀する医者です。術者がロボットを操作することで初めて手術が可能になるのです。

当院ではその4世代目となるダビンチXを導入し、泌尿器科医、麻酔科医、手術室看護師、臨床工学技士がチーム一丸となってロボット手術を行っています。

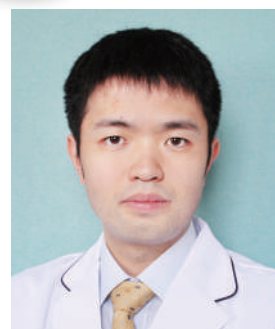
現在、ロボット前立腺摘出術を保険適応で行っておりますが、この手術は先進的な医療であるにも関わらず医療費の負担は従来の手術とあまり変わりません。さらに、高額療養費制度を利用することで負担を少なくすることが可能です。

今後随時、腎部分切除術、膀胱全摘術、腎盂形成術、骨盤臓器脱手術(仙骨固定術)を導入する予定です。

これまでロボット手術の利点について述べて参りましたが、手術の大原則は安全かつ確実に完遂することです。われわれは、これまで培った知識・技術に加えダビンチXという新しい機器を駆使し、手術を受けられた患者さんから彩の国東大宮メディカルセンターで手術を受けて良かったと感じていただけるようにこれからも努力を惜しまず精進して参ります。



糖尿病内科



糖尿病内科
八木 一騎

糖尿病とは

糖尿病は日本人のおおよそ10人に1人がかかっている身近な病気です。自覚症状は出にくいですが、動脈硬化の原因になったり、傷の治りが悪くなったり、免疫力が低下したりするなど多くの影響があります。



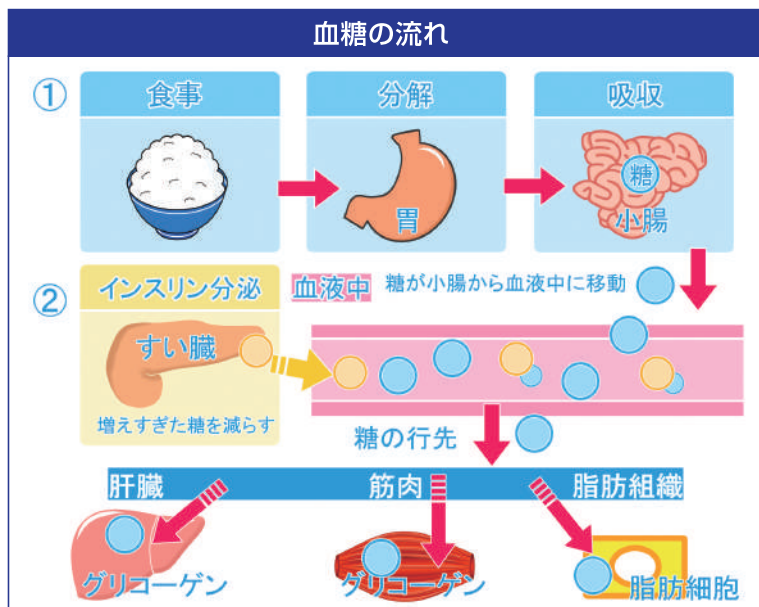
昨今では新型コロナウイルス感染症時の重症化リスクの1つにも挙げられ、軽視することのできない病気です。そのため、地域の医療機関から紹介を受けて糖尿病治療のために受診をしていただく以外にも入院した際など様々なときに、私たちの科も一緒に治療に携わっています。

残念ながら糖尿病は薬を飲んだら終わりということはありません。病状に合わせて食事・運動療法に加えて内服薬や注射薬、さらにはインスリンポンプや持続血糖測定器などの医療機器を選択し、個々の食生活や運動習慣、生活環境に合わせたオーダーメイドな治療の継続が必要になります。そのため当院では医師・管理栄養師・看護師・薬剤師・理学療法士・医療事務職など多職種が参加する糖尿病チームを組んで定期的に話し合い、多様なニーズに対応できるように準備をしています。もちろん、患者さんにとってよりよい治療を行うために医療従事者だけでなく、患者さんを支える家族や友人など一丸となつて取り組むことが重要になります。食生活の事、糖尿病治療で扱う医療機器や薬剤の事、足のケアで困っている事だけでなく、社会生活のちょっとした事を、いろいろ教えてください。何気ない生活の工夫がもつとも大きな治療効果を発揮することがあります。



糖尿病チーム

血糖の流れ



糖尿病教室

コロナ禍で2020年度は実施できませんでしたでしたが、落ち着いたら、地域の皆さんに糖尿病に関してもっと知ってもらうための糖尿病教室も再開していきますので、ご都合がよろしければぜひ参加してください。

「糖尿病のせいで人生が大きく制限された」と感じる人が一人でも少なくなるようみなで力を合わせて頑張っていきましょう。これからもよろしく願いいたします。



よりよい病院をめざして

**患者さんに安全な医療を提供し
安心して治療を受けられるよう、
全部署の安全管理体制の
整備・向上に取り組んでおります。**



医療安全管理課 係長 岡橋 綾子

医療安全とは、皆さんに安心して安全な診療を受けていただけるように、間違いやすい手順や方法を見直し、システムを改善することによって事故や間違いが起きるリスクを取り除く取り組みをしていくことです。そのためには、正しい患者確認をはじめとする、とても多くのことをチェックする必要があります。当院では、医療安全管理課として私を含め看護師2名（師長・主任）が専任で勤務し、また全部署の医療安全担当者が毎月集まって話し合う場を設け、情報共有と安全の確保に努めています。



リスクを未然に防ぐためのインシデントレベル0事例の共有。

当院では機能評価機構など医療指標に準じた医療安全体制を有していますが、それでも患者さんに不利益なことが起こってしまう場合もあります。その際はなぜ起きたのか、対応は適切であったかを検証し再発防止策をたて、さらにその対策は妥当なのかを常に評価しています。発生した事例は当事者だけにとどめず、また隠すこと無く報告し共有する体制が整っており、病院全体で同じことが起きないように対応しています。また、患者さんに不利益なことが起こる前に、そのリスクに気づいた体験（インシデントレベル0事例と呼んでいます）を全職種から報告する取り組みを行いさらなるシステム改善につなげています。



職員のリスク感性を養っていくことも医療安全課の活動になります。

職員から医療安全の川柳を募集し、その中の優秀作品を毎月の川柳として職員向けに周知することで、医療安全意識を高めるようにしています。

医療安全の達成には病院の職員だけでなく、患者さんにも一緒に取り組んでいただくことが必要です。例えば診療の際に、患者さんご自身にフルネームを名乗っていただき、さらに生年月日の照合も行います（ご自身で名乗れない患者さんについては付き添いの方に同様の確認をさせていただきます）。当院では1日平均600人以上の患者さんが外来受診され、300人を超える入院患者さんがおります。その中には同姓同名の患者さんもしらっしゃいます。診療を安全に行うためには、その診療を受ける患者さんを正しく確認する事が大変重要になるため、ご協力をお願いします。



隠さない医療安全とリスク感性の向上を当院の風土として定着させるため、日々医療安全活動を行っています。どうぞ、安心して当院にお越しください。

感染症対策のため、患者教室は当面の間、中止させていただきます。
開催日が決定次第、当院ホームページにお知らせしますので、
よろしくお願い致します。

今年度は総勢63名の新入職員が入職しました。
オリエンテーションを経て、各部署へ配属されています。
どうぞよろしくお願い致します。

診療実績

(2020年12月～2021年3月平均)

入院稼働率 ……89.2%
1日平均入院患者数 ……283.8人
平均在院日数 ……15.7日
1日平均外来患者数 ……532.0人
救急搬送件数 ……439件/月
手術件数 ……246件/月
紹介患者数 ……657件/月

2021年度 新入職員

初期研修医 ……8名
事務 ……5名
理学療法士 ……8名
作業療法士 ……3名
臨床検査技師 ……2名
看護師 ……33名
准看護師 ……2名
薬剤師 ……2名



交通案内図



- JR**
宇都宮線・湘南新宿ライン・上野東京ライン
「土呂駅」東口より 徒歩約11分
- 東武アーバンパークライン**
「大宮公園駅」より 徒歩約9分
- 自動車**
首都高速埼玉新都心線「さいたま見沼」ICより 約18分
東北自動車道「岩槻」ICより 約21分

